

症例は 60 歳代の男性で、糖尿病性腎症による慢性腎不全（人工透析中）で、トロポニンの上昇を認め、急性冠症候群の状態であった。

左内胸動脈から左前下行枝へのバイパスは良好に疎通、左回旋枝は慢性完全閉塞で、病変は右冠動脈であった。

非常に強い石灰化を認め、ロータブレード施行中にロータワイヤーの断裂を認めた。

病変の近位部をバルーンにて拡張し、ステントを留置して、断裂したワイヤーを血管壁に押し付けようと試みたが、ステントが進まず、最終的にもう一本のワイヤーを用いてからめて、断裂したワイヤーを抜去した。

ワイヤー断裂した場合には、ワイヤーを絡めて取る方法、スネアーを用いて取る方法、十分な抗血小板療法を行い、そのまま断裂したワイヤーを放置する方法、ステントを留置して断裂したワイヤーを血管壁に押し付ける方法などが考えられた。

ワイヤー断裂を予防する対策としては、ワイヤーを適切な位置に留置する、断裂しにくいガイドワイヤーを用いる、ステント留置後、抜去困難となったワイヤーにバルーンを進めるなどが考えられた。